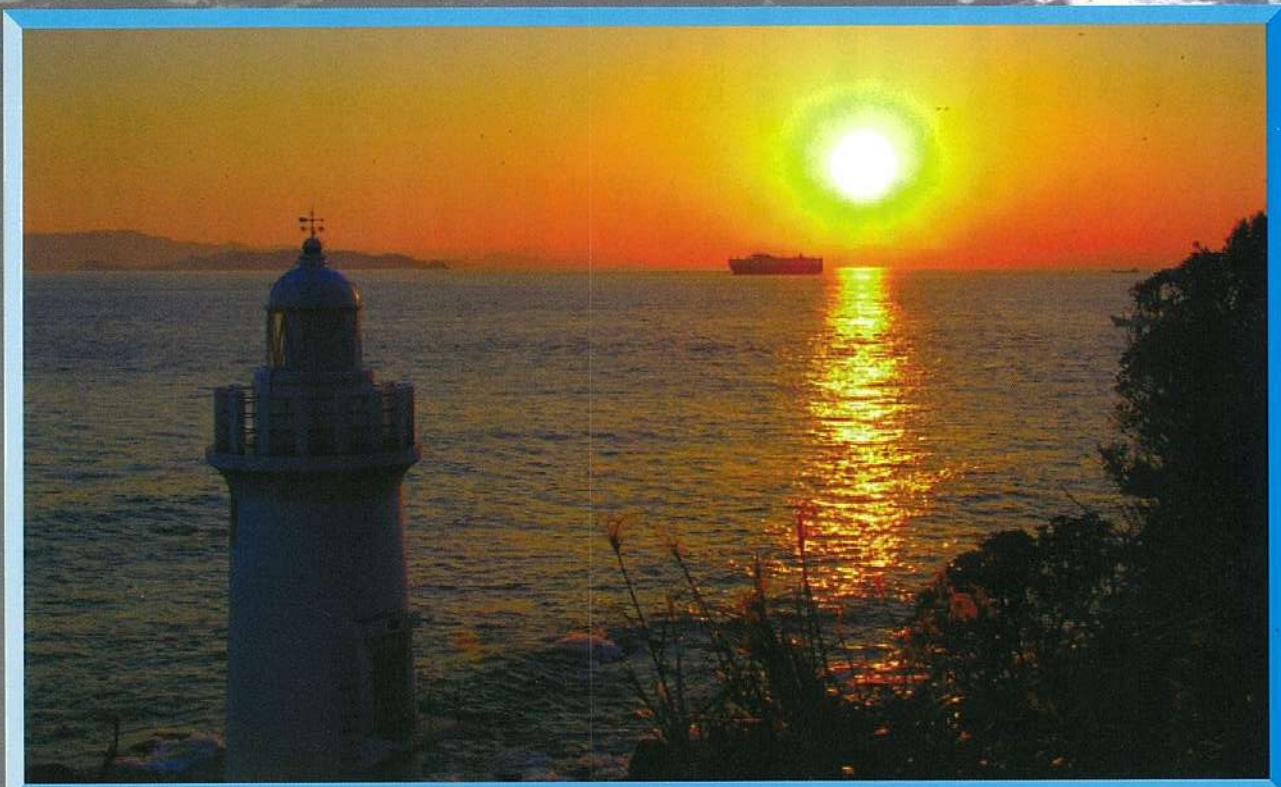


あおもり漁連

代表理事長 植村正治書

資源有限漁業無限

No.
149



CONTENTS

県内系統・関係機関・年頭ごあいさつ	1	「青森県漁船保険組合創立70周年記念式典・祝賀会」開催	17
全国系統団体 年頭ごあいさつ	7	青森県水産総合研究センター増養殖研究所 創立40周年記念講演会及び祝賀会開催	17
2008 活力と魅力溢れる漁村づくり「日本海地区大会」開催	11	「東北地区漁業漁協対策協議会」設立	18
「平成20年度青森県豊かな海づくり大会」開催	13	第36回「海をきれいにする運動」入賞作品紹介	19
「燃油高騰対策」省燃油操業実証事業の動き	15	水産に関する主な動き（8月～12月）	22
泊漁業協同組合新荷捌施設紹介	16		
平成20年度 漁協運動功労者表彰式	16		

2009 1

21世紀は漁村の時代

平成二十一年

県内系統・関係機関

年頭ごあいさつ



青森県漁業協同組合連合会

代表理事長 植村正治

平成二十一年の新春を迎え、県内漁業者の皆様そして漁協役職員の皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、米国のサブプライムローン、大手証券会社の破綻等により世界全体が金融危機に見舞われ、経済不況に陥いるという大変厳しい年でありました。

わが国においても、多くの業界がその影響を受け、景気の悪化に拍車がかけられたところであります。

一方、漁業界においては、異常なまでの燃料高騰が漁業者の自助努力による操業の限界を超えていた状況にあることから、はじめに、全国いか釣漁業協議会が昨年六月十八日、十九日の二日間、加入する小型いか釣船の一斉休漁を実施しました。続いて七月十五日には、JF全漁連大日本水産会主催による「漁業経営危機突破全

国漁民大会」が開催され、全国から三、六〇〇人が参加し、燃油価格高騰対策の要請を国等に対し行つたところであります。また、当日は大会と同時に全国で漁船約二十万隻、漁業者約四十万人が一斉に休漁もし小型いか釣に続き、窮状を訴えたところであります。

これら一連の行動が効を奏し、国において燃料高騰で経営環境が悪化している漁業者に対し、燃料費の増加分の九割を補てんすること等を柱とした、省燃油実証事業費八十億円等、総額七四五億円の対策費を二十年度の予算の中から当されました。また、十月には、燃油高騰水産業緊急対策として、総額六〇〇億円の大型補正予算を追加措置されました。これらの対策費を利用し本県においては、省燃油操業実証事業を中心種々実施しております。

メイカの不漁とホタテ貝の減産により取扱高が落ち込んでおり、今後の漁に期待しているところであります。

また、幸いにも昨年は、台風や低気圧による自然災害がなく、また近年襲来している大型クラゲも姿を見せなかつたことから、これらによる漁業被害が無かつたことが、明るい話題と言えましょう。

本県の漁業者の経営対策については、平成二十年度から五ヶ年の事業として、漁業経営安定対策事業（積立ふらす）がスタートしましたが、この事業は、漁業者が不漁等で減収となつた場合、現行の漁業共済に加え、積立方式により補てんするというもので、漁業の安定化と担い手の確保を目的とした事業となつておりますので、本年も積極的に推進して参ります。

また、ホタテ漁業につきましては、効率的な養殖を推進するため、「ホタテガイ適正養殖可能数量制度（TASC）」を二〇〇九年度から導入し、漁業者の経営安定に努めて参ります。

地方・地域産業の振興には、何としても資源を持続可能ならしめることが必須条件であり、

あおもり漁連

これを行政、業界みんなで構築することが重要であります。

将来に向け共存共栄の柱を打ち立てる為、協同組合組織が不可欠であると考える時、今こそ

「甦れ協同組合運動」の旗のもと、資源、魚価、金融の回復を目指して系統が一致協力し、その実現に向け一丸となつて邁進すべきときであり、関係の皆様にご理解とご協力を願いとする次第



青森県農林水産部

水産局長 坪 田 哲

新年おめでとうございます。

本県水産業の発展に御尽力いたしております

皆様に謹んで新春の御挨拶を申し上げます。

災害・事故関係においては、台風などによる大きな災害被害はなかつたものの、四月に陸奥湾内で漁船が転覆、乗組員八名が亡くなられるという痛ましい事故がありました。県としては安全操業と救命胴衣の着用を常日頃から呼びかけているところですが、漁協関係者の皆様に対する一層のご指導をお願いいたします。

こうした取組みを通じて、水産業に携わる皆様と一緒に本県の水産業を盛り上げ、食料供給県としての確固たる地位を維持し、更なる発展を目指して参りたいと考えていますので、皆様には今後とも御理解・御協力を願いいたします。

最後になりましたが、皆様の御健勝と御繁栄を心からお祈りいたしまして、新年の御挨拶といたします。

新年おめでとうございます。
本県水産業の発展に御尽力いたしております
皆様に謹んで新春の御挨拶を申し上げます。

災害・事故関係においては、台風などによる大きな災害被害はなかつたものの、四月に陸奥湾内で漁船が転覆、乗組員八名が亡くなられるという痛ましい事故がありました。県としては安全操業と救命胴衣の着用を常日頃から呼びかけているところですが、漁協関係者の皆様に対する一層のご指導をお願いいたします。

明るい話題としては、近年秋になると出現し、漁業に甚大な被害をもたらしていた大型クラゲが昨年は姿を見せせず、漁業の方々の安心もひときわだつたことでしょう。今年も大型クラゲが姿を見せないことを祈ります。

であります。新年は共に頑張りましょう。

終わりに、組合員皆様のご健康と海上安全を祈念申し上げ年頭の挨拶と致します。



農林中央金庫

青森支店長 有田吉弘

漁協組合員ならびに漁協系統団体の役職員の皆様、新年あけましておめでとうございます。

取り巻くさまざまな環境が厳しさを増すなか、漁業と漁協系統事業全般にわたる皆様方の日々のご尽力に対しまして深く敬意を表しますとともに、私ども農林中央金庫の業務につきまして、平素より特段のご理解とご支援を賜り心から感謝申しあげます。

昨年は、米国の信用力が低い個人向け住宅ローン、いわゆるサブプライムローン問題に端を発した世界的な金融市場混乱を受け、銀行、保険、証券会社等金融機関は多額の損失処理を余儀なくされ、「百年に一度の危機」とも言われております。日本経済におきましても、その影響は金融業界に留まらず実体経済にも及び、企業設備投資抑制や雇用悪化等を受けた民間消費低迷等、更なる景気悪化の様相が強まっております。一方、当県の漁業環境につきましても、燃料の高騰に加え、当県の主要魚種であるほたて貝・するめいかの水揚げ数量低迷等、漁業者の所得

減少や次世代の方々の後継意欲への悪影響が憂慮される事態が相次ぎました。

このような状況下、全国の漁業者が一致団結し一斉休漁・総決起集会により浜の窮状を訴えた結果、燃油高騰水産業緊急対策事業が創設され、当県におきましても広く活用されております。本県漁業基盤への影響を最大限回避するべく、速やかに行動を起こされた漁業関係者の皆様の実行力に対し、改めて敬意を表する次第であります。

信用事業におきましては、不祥事件未然防止に取り組んでいただいており、昨年一年間で相続の効果が表れております。昨年もコンプライアンスに反した多くの企業が市場からの退場を命じられましたが、JFマリンバンクにおいても不祥事件発生は重大な問題に繋がりかねません。いったん事が生じれば、経営責任の明確化と改善が厳しく求められることになるため、日頃より不祥事件の未然防止を目的とした体制整備や法令・ルールの遵守(=コンプライアンス)

の徹底に努めていただくことが、利用者から信頼を得るための鍵となります。

当県では、信漁連を中心とした「あんしん体制」の構築は完了しておりますが、引き続き組合員の信頼に応え「浜の金融」を守っていくため、更なる信用事業の運営強化に取り組まれますようお願い申し上げます。

青森県は四つの海に囲まれ、漁業者は勿論のこと、県をはじめ、水産関係団体の長年のご努力の結果、水産県として全国的に高い評価を得ております。そのようななかで、当県の漁場、生産者および漁協組織は、水産県青森を将来にわたって支えるかけがえのない財産であり、この財産を守るために健全な組織づくりに向け、皆様方が引き続き取り組まれることを期待しております。

私ども農林中央金庫といたしましても、県内漁業ならびに漁協系統の更なる発展のために皆様と連携し、お手伝いさせていただく所存でありますので、よろしくお願い申しあげます。

最後になりましたが、今年一年の豊漁と、あわせて県内漁業に携わる皆様方のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



青森県信用漁業協同組合連合会

代表理事長 古川俊

俊

新年あけましておめでとうございます。

年頭にあたり、漁業者の皆様、漁業に携わっている皆様方そして、日頃よりJFマリンバンク青森県信漁連をご利用いただいている皆様方に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

さて、昨年の青森県の漁業につきましては、年初より西北地区でヤリイカ漁が好調に水揚げされ、春漁のマス等も下北地区ではまずまずの漁となり平順な年になるものと予測していまし
たが、夏場のスルメイカが全県に及んで不漁となり、むつ湾地区のホタテについても価格が安定せず、七月以降は、予想に反して大幅に水揚げが低迷いたしました。

また、昨年は大型クラゲの来遊による被害はありませんでしたが、燃油価格が異常に高騰し、あまりの経費の増大により、出漁を見合わせる漁業者があとをたたず、今後の漁業経営のありかたを問われる事態となりました。

この問題について、昨年、七月十五日には「漁業経営危機突破 全国大会」で全国の漁業者が政府・国会へ支援要請を強力に働きかけ、当日のニュースでは大々的にとりあげられました。その後、原油価格については下落傾向になりますが、当面の間はまだ高値に推移するものと考えられますので、当連合会としても関係団体と連携し、対策を講じていく所存であります。この様な状況下、昨年の我が国の経済情勢で

ございますが、昨年九月十六日未明米国大手証券会社リーマン・ブラザーズが破産法の申請をしたことを契機に、米国発の世界金融危機が訪れました。米国はもとより世界各国の金融機関や投資家が膨大な損失を被りました。これは一九九〇年代の日本を彷彿させるものがあり、被害はまだ拡大するものと予測され、我が国経済にとつても多大なる影響をおよぼすものと考えます。特に輸出関連産業とりわけ自動車関連企業は大幅な事業縮小を行い、雇用についても大規模な削減を行う見通しです。

これらの諸問題を踏まえた上で、地方に眼を向けますと、一次産業は後継者不足に歯止めがかからず、商業における経済環境は中央資本の大手商業施設に地域の小売店が客足を奪われ、行政面に於いても各種予算が困窮し、満足のゆく住民サービスができなくなつてきていると耳にします。これらの状況を少しでも改善できるよう、特に燃油消費の多量な漁業への支援を国・県・市町村が一体となつて対策を講じてくださるよう期待するところであります。

さて、当連合会の一年を振り返りますと、平成二十一年度上半期（平成二十一年九月三十日）では貯金残高五三、三六二百万円、貸出金残高一二、九二一百万円の実績となり、自己資本比率十二・四三パーセントと良好な状況を保つております。

次に当連合会の営業状況ですが、貯金業務では昨年度に引き続き懸賞付定期貯金を募集し、貯蓄推進運動を展開しています。融資業務につきましては、資金需要が減退傾向にある中で小口資金（生活資金、教育資金）を柱に融資推進を行なうほか、平成二十年七月一日から平成二十一年九月三十日まで住宅ローンの推進特別キャンペーンを開催いたしました。また、昨年来、網漁業が不振な状況にあるため、平成二十年網漁業不漁対策資金を新たに設けましたのでご活用下さいますよう宜しくお願ひ申しあげます。

当連合会といたしましては、漁業者の皆様の立場になつて時代や環境に沿つた商品を提供していく所存でございます。

お客様には不行き届きな点が多くあることと存じますので、ご意見ご要望を述べていただければ、検討の上、対処させていただきますので宜しくお願ひ申し上げます。

平成二十一年は漁業環境、経済環境とともに厳しいものと予測される中で青森県信漁連といたしましては漁業者の方々や漁業関係者の皆様が満足していただけるように、そして、JFマリンバンク青森県信漁連をご利用いただいている皆様のご期待に応えられるような業務運営をして役職員一同、努力してまいりますので、皆様のご利用とご協力をお願い申し上げます。

結びといたしまして、漁業発展と皆様方のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、本年もご指導ご愛顧賜りますよう宜しくお願ひ申し上げ、ご挨拶といたします。

このことにつきましては、日ごろより皆様のご支援とご協力なくしては有り得ないことを常に心に留めて役職員一同業務に励む所存でございます。



青森県漁業信用基金協会

理事長 植 村 正 治

新年あけましておめでとうございます。

平成二十一年の輝かしい新春を会員の皆様とお迎えすることができましたことを大変うれしく思います。

また、日ごろ当協会の業務につきまして、県、市町村、関係機関より格別の御指導、御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

域の資源量の減少、輸入水産物の増大に伴う魚価安等により年々厳しさを増しており、特に昨年は、燃油価格の急騰に伴い、漁業経営は極めて困難な事態に直面しております。このような時こそ、漁協並びに漁業者の皆様そして私ども「系統団体」が一丸となり、その役割を發揮することが必要であり、当協会といたしましても、関係機関と連携し積極的な保証

対応に努め、特に、平成十三年度から実施している小口目的資金等の沿岸漁業推進関連資金（県漁連・信漁連・協会三者で創設）については、お蔭様で御好評をいただいており、また、平成十八年度より本協会独自の新たな保証対応の一環として、極度貸付事業資金への根保証を実施し、中小漁業者等の事業運営の円滑化と利便性を図っております。

なお、本年においては、県漁連並びに信漁連と一緒に『甦れ協同組合運動』の旗を掲げ、漁協の再生、健全化に積極的に取り組む所存であり、引き続きの御協力、御支援を賜りま

すようお願いいたします。
終りに、皆様のますますの御繁栄と御健勝をお祈り申し上げ、年頭の御挨拶といたします。



青森県漁船保険組合

組合長理事 福 島 哲 男

漁船保険組合もこの影響を受け、加入隻数減少、契約金額の減少が続いており、特に燃油の高騰は大型、中型、いかつり船の廃業に拍車をかけております。

新年あけましておめでとうございます。
平成二十一年の新春を迎え、組合員、水産関係団体、漁業協同組合の役職員の皆様に心から新春のお慶びを申し上げます。

平成二十年を振り返ってみると、漁業界は依然厳しい状況が続いております。燃油の高騰、水揚げの減少、漁価安、後継者問題等により漁家経営を圧迫しております。

漁船保険組合の使命である漁家経営の安定に資するため、保険金の早期支払、未加入漁船の加入促進に向け更なる努力をし、組合員の漁船保険組合であることを忘れず邁進してまいります。

平成二十年度では普通損害保険の基準保険料を平均二、五四%の引き下げ、漁船船主責任保険の基本損害の保険料率は平均二十%引き下げを

おこないました。平成二十一年度にも漁船船主責任保険の基本損害は平均十三%の引き下げ予定であり、船主責任制限額の六億円に全船加入できるよう現在作業中であります。

さて、昨年は当組合が昭和十三年六月に設立されてから満七十年を迎えることができました、七十年の歴史は平坦な道のりではなく戦火等、幾多の苦難を乗り越えて今日までに至つてまい

青森県の漁村の皆様、明けましておめでとうございます。

新春にあたり、皆様の本年のご多幸を心よりご祈念申し上げます。

昨年は、燃油価格の異常な高騰に加え、サブプライム問題に端を発した世界的な金融危機など、漁業を取り巻く環境がより一層厳しさを増した年でした。加えて、引き続く水産資源の悪化、魚価の低迷、異常な気象・海況による自然災害などにより、わが国の漁業は今まで以上に厳しい状況に直面しております。

こうした中で、国はJFグループをはじめとする漁業界からの強い要請を受け、平成二十年



青森県漁業共済組合

組合長理事 三津谷 廣 明

りましたことは、水産庁、県庁、漁船保険中央会、組合員、各水産関係団体、各漁業協同組合の役職員のご支援、ご指導の賜と深く感謝申上げます。今までの皆様への感謝の思いと、

今後の漁業界の発展と希望の船出として創立七十周年記念式典を十月二十二日関係各位の御臨席を賜り開催出来ましたことは誠に感謝いたしております。

終わりになりますが、皆様の今年一年のご健

康とご多幸を祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。

今後も漁業界の取り巻く状況は依然と厳しい現状ではありますが、役職員一丸となり難局を乗り越えて漁船保険組合の使命を果たしていく

度補正予算で「水産業燃油高騰緊急対策」を実施するなど、漁業経営の存続に向けて強力な取り組みを行っているところです。

このような状況のもと、漁業経営のセーフティネットとしてさらに重要性を増している「ぎよさい」の加入推進につきましては、関係機関等との強力な連携のもと、加入目標の達成に向けて全力を挙げて推進活動を展開してまいります。併せて、平成二十一年度から実施を予定しております新しい加入推進運動でも、「ぎよさい」のより一層の普遍的加入を目指して、全効力を挙げて取り組む所存であります。

本年も、「ぎよさい」でつなぐ明日の漁業と明るい漁村づくりをめざし、国、地方公共団体、漁業協同組合などとの緊密な連携のもと、漁業者の皆様と共に力強く邁進する所存でございますので、皆様の変わらぬご愛顧と厚いご支援ご協力を心よりお願い申し上げます。

さらに、運動最終年度の平成二十一年度には、

新たな漁業経営安定対策事業としてスタートを切りました「積立ぶらす」におきましては、漁協系統、行政、ぎよさい団体が一体となつた取り組みがすすめられており、「ぎよさい」加入と併せた漁業経営安定機能の一層の強化が図られているところです。

三年間にわたる「浜を守る！ぎよさい総加入運動」も余すところあと二ヶ月となりましたが、私ども青森県漁業共済組合は、運動目標達成に向けて全力を挙げて推進活動を展開してまいります。併せて、平成二十一年度から実施を予定しております新しい加入推進運動でも、「ぎよさい」のより一層の普遍的加入を目指して、全効力を挙げて取り組む所存であります。

本年も、「ぎよさい」でつなぐ明日の漁業と明るい漁村づくりをめざし、国、地方公共団体、漁業協同組合などとの緊密な連携のもと、漁業者の皆様と共に力強く邁進する所存でございますので、皆様の変わらぬご愛顧と厚いご支援ご協力を心よりお願い申し上げます。



全国漁業協同組合連合会

代表理事長 服 部 郁 弘

新年明けましておめでとうございます。

年頭にあたり、全国津々浦々で活躍中の組合員の皆様並びにJFグループの皆様に謹んで新年のご挨拶を申しあげます。

国際原油市況の乱高下や、米国の金融危機に端を発する世界経済の急速な悪化など、経済・社会諸情勢が目まぐるしく変化する中、国内においては、食の安全・安心の重要性の問題や燃油・資材類等の価格高騰による経営コストの増加等、組合員、JFグループの経営環境も一層厳しさを増している状況にあります。

特に、漁業・漁船にとって血液ともいべき燃油価格の未曾有の高騰から、昨年の夏開催した「漁業経営危機突破 全国漁民大会」に約四千人の漁業者が集結し、「漁業を守れ!」という

悲痛な声を上げるとともに、わが国漁業の歴史上初めて、全国二十万隻の漁船が一斉休漁に踏み切り、浜の窮状を訴えたことは記憶に新しいことです。

我々漁業者の要望を重く受け止めていただき、昨年七月末の燃油高騰水産業緊急対策に続き十月には、総額六百億円の大型補正予算が政府により追加措置されました。この緊急対策は、中長期的な漁業経営の体質強化と構造改革推進を目指すものもあり、安定的な経営を維持していくための将来を見通したセーフティネットとして、有効に活用していくことが重要です。

JFグループは、二〇〇六年度からスタートした現行の運動方針に則り様々な活動を行ってきましたが、この実践活動も今年度末で三ヵ年

を経過します。これについて、水産業をめぐる情勢の変化やJFの経営改善に向けた取り組みが現在その過程にあること等を踏まえ、基本的には現行方針を二〇〇九年度も継続しつつ、重点取組事項のさらなる強化を図るとともに、実践的課題を中心に方針の一部補強を行い、確実に実行していくことを昨年十二月の「全国漁連(県漁協)・信漁連会長、漁済組合長合同会議」において決定したところです。

これら以外にも、さまざまな課題が山積しておりますが、諸課題への対処や、施策の実現のために、JFグループの総力を結集し水産政治力の強化を図ることが不可欠です。

JF全漁連といたしましては、JFグループの皆様をはじめ社会からも信頼される組織を目指し、役職員一丸となつて一層の努力を重ねてまいる所存です。

この一年が、皆様方にとりまして良い年でありますよう、また、操業の安全と一層のご繁栄・ご健勝を祈念申しあげ、新年のご挨拶といたします。





全国共済水産業協同組合連合会

代表理事長 吉岡修一

新年、明けましておめでとうございます。二〇〇九年の年頭にあたり、本年が皆様にとって実りある年となることを願いつつ、一言ご挨拶を申し上げます。

さて、わが国経済は、米国のサブプライムローンの破綻が世界の金融市場に混乱を及ぼし、世界規模の株価・債権相場の低迷、円高の進行等、先行きの不透明感が増してきています。また、民間保険業界にあつては、不払問題への対応、顧客基盤・市場自体の縮小等により契約実績、収益がともに落ち込み、また、これまで好調を維持してきた医療保険、年金保険とともに頭打ちの傾向がみられます。

一方、漁業・漁村においては、水産業始まって以来初の全国一斉休漁を決行するとともに漁業経営危機突破全国漁民大会を開催し、漁業経

ければならないと考えています。

さらに、二十年度を初年度とする「海といっしょに。浜といっしょに。—JF共済三か年計画」にもとづきJF事業としての役割を強化するため共済自立JFの構築に取り組むとともに、改正水協法施行に伴う契約者保護の強化、また、共済業務改革・マネジメント改革を推進し共済事業実施基盤の強化に取り組んでまいります。

どうか新しい年におきましても、JF共済につきまして引き続き皆様の特段のご高配を賜わり組んでいます。

このような事業環境のもと、JF共済（JF共水連）においては、事業量伸長の停滞・保有契約量の減少傾向にあり、これが様々な経営課題を生じさせており、保有契約量の維持・増大が最重要課題となっています。このため本年度は「ふれいあい型推進」を第一に解約防止及びJF共済未加入世帯の解消に向け全戸訪問に取り組み、引き続き運動の強化によつて所期の加入目標の必達と保有契約量の拡大を期さな

2008 活力と魅力溢れる漁村づくり 「日本海地区大会」開催

去る11月1日、日本海地区的漁業者をはじめ、県や関係団体等の約500名の参加による"2008活力と魅力溢れる漁村づくり「日本海地区大会」"が、鰺ヶ沢町の日本海拠点館で開催された。

この大会は、漁業就業者の高齢化や減少、輸入水産物の圧力による産地魚価の低迷や世界規模の燃油価格高騰等、現在の厳しい漁業状況を開拓するためには、資源回復に向けた積極的な取り組みや付加価値をつけた販売体制の確立、漁業金融の回復が必要であるとの認識のもとに、持続可能な資源の確保と漁業経営の安定化を図り、本県西海岸における浜の活力と魅力溢れる漁村づくりに資することを目的として開催された。



来賓



主催者



開会宣言をする角田会長

角田順一西北水産振興会長が開会宣言をし、地元漁協代表として西崎義三新深浦町漁協組合長が、今こそ協同組合精神の原点に立ち返ろうと参加者に呼びかけた。

続いて、柞木田善治氏（県水産総合研究センター所長）により、「豊かな海を育む水産業の推進～青森県の水産資源と管理～」と題し、日本海地区的資源管理の現状について、また、石澤優氏（株式会社ふかうら開発代表取締役専務）により、「地元素材を活用した商品づくりと流通対策について」と題し、地元産品に付加価値をつけた販売と流通について、それぞれ講演が行われた。



講演する柞木田所長



講演する石澤専務

協同組合運動精神

一人一人の力はあまりに
小さいが和して団結するとき
偉大である
意見を異にするも調和を
失わず互いに異議を唱えるも
分離せず
ときに憎しみ合うも
常に常に團結を守り抜く

あおもり漁連



優勝 伊藤 譲さん（赤石水産）



準優勝 太田 裕子さん（下前）

また、アトラクションでは、各地域から選ばれた8組によるカラオケ大会が開催され、参加者が自慢の声を披露し、地元応援団の拍手喝采を浴びていた。

最後に、小出政明県漁村活性化対策協議会副会長が閉会の言葉を述べ、大会は盛会のうちに終了した。



三位 山本 利雄さん（風合瀬）



特別賞 長谷川夫妻（深浦）

《カラオケ大会結果》

優勝	伊藤 譲	赤石水産	太空と大地の中で	参加賞	山本 富一	鰯ヶ沢	哀のブルース
準優勝	太田 裕子	下前	海ぶし		三浦喜代光	車力	男の港
三位	山本 利雄	風合瀬	流れて津軽		山崎 正男	大戸瀬	舵
特別賞	長谷川主計 照江子	深浦	めおと街道		古川 馨	艤作	宇治川哀歌



山本 富一さん（鰯ヶ沢）



三浦喜代光さん（車力）



山崎 正男さん（大戸瀬）



古川 馨さん（艤作）

「平成20年度青森県豊かな海づくり大会」開催

去る、11月1日(土) 鮫ヶ沢町「日本海拠点館」において、平成20年度青森県豊かな海づくり大会が開催された。

この大会は平成2年三沢漁港において、全国豊かな海づくり大会が開催されたことを記念し翌年から県内の主たる海域等で開催されて来た。

大会には、県内漁協や水産関係団体、県関係者、沿岸市町村長ら約500人が参加した。

式典開催前に大会関係者、鮫ヶ沢保育所の園児も加わり、漁業資源の回復を願ってヒラメとキツネメバルの稚魚各千匹が放流された。

式典では、始めに、植村正治大会実行委員会会長(青森県漁連会長)が主催者の挨拶を述べ、続いて来賓の三村申吾青森県知事(青山祐治副知事代読)、神山久志青森県議会議長(工藤兼光県議会議員代読)、長谷川兼己鮫ヶ沢町長がそれぞれ祝辞を述べた。

その後、本県水産業活性化の模範となる実績を上げている2個人に対して三村知事より「青森県水産大賞」が贈られた。



挨拶をする植村会長



祝辞を述べる青山副知事

表彰に続いて、青森県漁業士会会长の山下幸彦さんが「海づくりと人づくり」、また、青森県漁協女性組織協議会理事の熊谷タマエさんが「浜の未来を考える」と題してそれぞれ浜の声を発表した。

最後に、大会決議を三國優大会実行委員会委員が朗読し、出席者の満場の拍手で採択された。



浜の声を発表する山下幸彦さん



浜の声を発表する熊谷タマエさん



大会決議を朗読する三國委員

青森県水産大賞受賞者は次のとおり

大川武夫(前北金ヶ沢漁業振興会長)

澤口政仁(前三沢市漁業協同組合長)



大 会 決 議

青森県は全国でも屈指の水産県であり我々漁業者は、長年にわたる浜の団結により、すばらしい漁業・漁村を築いてきた。

しかし、漁業を取り巻く情勢は、資源量の減少や魚価の低迷、高齢化による漁村の活力低下、更には、原油価格の異常な高騰と、かつてないほど厳しく、漁業者は大きな打撃を受けているところであり、このままでは漁業経営が成り立たず、存続が危ぶまれる状況にある。

これまで県は、つくり育てる漁業や資源管理型漁業の推進、そして近年「攻めの農林水産業」を着実に実践してきたが、厳しい漁業情勢の中で、今まで以上に積極的に取り組んでいく必要がある。

また、このすばらしい海を子々孫々に引き継ぎ存続させるため、喜びと生きがいのある漁村づくり、共存共栄体制の構築、そして浜の金融の円滑化など、漁業者一人一人が協同組合の原点に立ち、青森県の漁業・漁村を自らの手で甦らせなければならない。

よって、私たちは青森県の豊かな自然と漁業、そして活力ある漁村を後世に継承するため、下記のとおりここに決議する。

記

1. 山・川・海をつなぐ水循環システムの再生を図り、国民の求める安全・安心で良質な水産物の安定的な生産・供給を推進する。
2. 水産資源の回復を図り、魚価対策と水産物の持続的利用のためのルールづくりを推進する。
3. 燃油価格高騰に耐え得る、効率的な漁業経営を推進する。
4. 漁業経営の維持・安定のため、ぎょさい及び融資保証・保険制度等を活用した漁業金融の円滑化を推進する。
5. 青森県の漁業・漁村の再生発展のため、相互扶助を理念とした協同組合運動の原点に立ち帰る。

平成20年11月1日

平成20年度青森県豊かな海づくり大会

「燃油高騰対策」省燃油操業実証事業の動き

5年前の約3倍に達した燃油高騰により、資材も含めた漁業経費が増大し、漁業者が廃業や休業に追い込まれている危機的状況を開拓するため、7月15日に漁業経営危機突破全国漁民大会と初となる全国一斉休漁が実施された。このことを受け、7月末には国の新たな施策として、燃油高騰水産業緊急対策（745億円）の4つの支援策が講じられた。その支援策の目玉となる事業は、燃油費増額分に着目した「省燃油操業実証事業」で、これは、漁業者グループが、操業の合理化によって平成19年の燃油消費量と比較し、10%以上削減する実証事業に取り組む場合に、燃油費の増額分（平成19年12月末を基準）の最大9割を国が負担するというものであり、予算額は80億円とされた。しかし、需要が多く見込まれることから、補正予算により、新たに50億円が追加され総額630億円に事業が拡大された。

この実証事業について、本県では16漁協（23グループ）から申請があり、事業費総額は1,708,668,355円という取組状況となっている。

しかし、現在燃油価格が急激に下落したことにより、基準となる昨年12月末の単価を下回ってきており、事業の恩恵を受けられない状況にあるが、燃油価格は以前として高止まりの状況にあり、今後上昇へと転じる可能性も否定できないことから、燃油急騰に対するセーフティネットとして、本事業の継続・活用が重要である。

《本県における省燃油操業実証事業の取組内容》

漁協名	グループ名（隻数）	燃油消費量削減取組
深浦	深浦漁協一本釣部会（10隻）	減速航行、操業時間短縮、休漁
	深浦漁協いか釣部会（8隻）	減速航行、光力削減、休漁
風合瀬	風合瀬漁協まぐろ延縄漁業協議会（9隻）	減速航行、光力削減、休漁
新深浦町	新深浦町漁協まぐろ延縄漁業協議会（3隻）	減速航行、光力削減、休漁
	新深浦町漁協いか釣漁業協議会（4隻）	減速航行、光力削減、休漁
十三	十三漁協しじみ漁業者グループ（105隻）	減速航行、抑制操業
	十三漁協底建網漁業者グループ（6隻）	減速航行、休漁
下前	下前いか釣協議会（35隻）	減速航行、光力削減、休漁
	下前一本釣組合（6隻）	減速航行、操業時間短縮、休漁
小泊	小泊いか釣協議会（45隻）	減速航行、光力削減、操業時間短縮、休漁
竜飛今別	竜飛今別漁協いか釣漁業部会（5隻）	減速航行、光力削減、船底清掃、抑制操業、休漁
三厩村	三厩村いか釣協議会（5隻）	減速航行、光力削減、船底清掃、抑制操業、休漁
外ヶ浜	外ヶ浜漁協蟹田（ほたて）グループ（56隻）	減速航行、船底清掃、休漁
	外ヶ浜漁協平館（ほたて）グループ（39隻）	減速航行、船底清掃、休漁
	外ヶ浜漁協刺網グループ（13隻）	減速航行、船底清掃、休漁
むつ市	むつ市省エネグループ（6隻）	減速航行、船底清掃、休漁
川内町	ホタテ・ナマコ漁業者グループ（60隻）	減速航行、船底清掃、休漁
脇野沢村	脇野沢村漁協ほたて貝養殖部会（28隻）	減速航行、船底清掃、休漁
大畠町	大畠町漁協小型船いか釣協議会（6隻）	減速航行、抑制操業、光力削減、休漁
野牛	野牛漁協いか釣漁業部会（34隻）	減速航行、光力削減、船底清掃、抑制操業、休漁
三沢市	三沢市漁協小型船部会（25隻）	減速航行、操業時間短縮
八戸	小型底曳網漁業グループ（8隻）	減速航行、省エネ装置、休漁
みなと	八戸みなと漁協小型いか釣部会（12隻）	減速航行、省エネ装置、休漁
16漁協	23グループ（528隻）	総事業費 1,708,668,355円

泊漁業協同組合新荷捌施設紹介

安心・安全な水産物の供給をめざして



新荷捌施設概要

事業主体	施設の種類	規 模 ・ 構 造
青森県	防雪防暑施設 清浄海水取水施設 排水処理施設	P C 造 取水能力 $60\text{m}^3/\text{hr}$ 機械室（鉄骨造） R C 造 排水ポンプ能力 $0.8\text{m}^3/\text{min}$
六ヶ所村	荷捌き所施設 電動フォークリフト	1棟 R C 造 2階建 1階 $2,791.00\text{m}^2$ 2階 892.28m^2 延床面積 $3,683.28\text{m}^2$ 10台

平成20年度

漁協運動功労者表彰式

平成20年度（第23回）漁協運動功労者表彰式が、去る11月20日、東京虎ノ門パストラルで開催され、本県尻労漁協の川端昭治代表理事組合長を含む30人が表彰された。

主催者の服部J F全漁連会長から「経営不振対策をはじめ、WTO交渉等問題は山積しているが、表彰を受けられる皆さんの経験とさらなるご助言をお願いしたい。」との挨拶があり、続いて、来賓の近藤農林水産副大臣が祝辞を述べた。



J F 尻労 代表理事組合長
川 端 昭 治 氏

功績内容

永年に亘り、漁船漁業に従事し、昭和58年理事、平成10年には代表理事組合長に就任した。資源管理を推進する中で、ミズダコの再放流サイズの拡大を図り、漁獲の向上と漁家経営の安定に努めた。さらに、沿岸漁業と沖合漁業の漁場重複・競合問題についても積極的に取り組まれた。

「青森県漁船保険組合創立70周年記念式典・祝賀会」開催

去る、10月22日（水）、ホテル青森において青森県漁船保険組合が創立70周年記念式典及び祝賀会を開催した。

県内外の水産関係者約250人が参加した。

式典では最初に、福島哲男組合長理事が、青森県の漁業は燃油の高騰、後継者不足等で極めて厳しい状況にある、漁船保険も船齢の高齢化、加入隻数の減少等で厳しい状況にあるが、漁船保険の使命である漁業経営の安定に資するため、一致協力してこの難局を乗り切り、将来に向けてさらなる尽力をしていくと挨拶した。

このあと、山田修路水産庁長官（代読・内海和彦漁業保険管理官）、三村申吾青森県知事（代読・青山祐治副知事）、山内静夫漁船保険中央会会长、植村正治青森県漁連代表理事長が祝辞を述べた。

続いて、漁船保険の発展に功績のあった漁船保険組合役員、漁協、船主を表彰した。

式典終了後、祝賀会が開催された。

青森県水産総合研究センター増養殖研究所

創立40周年記念講演会及び祝賀会開催

去る11月29日（土）、青森市のホテルアラスカにおいて青森県水産総合研究センター増養殖研究所創立40周年記念講演会及び祝賀会が開催された。

創立40周年の記念行事の一環として講演会を開催した。

講演会では、「持続的な水産業に対する試験研究の役割～温暖化に負けない漁業を考える～」と題して、北海道大学大学院水産科学研究院教授桜井泰憲氏による講演が行われた。

記念講演会終了後に祝賀会が開催され、開会挨拶を青森県水産総合研究センター増養殖研究所の平野忠所長が述べた後、来賓挨拶を青森県漁業協同組合連合会植村正治代表理事長、平内町逢坂雄一町長が述べた。乾杯の音頭をむつ湾漁業振興会三津谷廣明会長を行い、祝賀会は盛会のうちに終了した。

「東北地区漁業漁協対策協議会」設立

去る、12月8日、東北6県の県漁連、県漁協、信漁連、漁業信用基金協会は、漁業を取り巻く環境が厳しく、多くの課題が山積していることから、それらの解決に向けた政策提言を行うことを目的に「東北地区漁業漁協対策協議会」を設立した。

協議会では、近年の水産物輸入増大による魚価安、資源の減少・枯渇等漁業環境の悪化に対処するため、水産物の安定供給と東北地区の水産業の発展、それを担う漁業と漁協の健全化を目指すこと、そして浜の金融の円滑化を図ることが、東北地区系統の共通の課題として意思統一された。

代表にJFみやぎの木村会長、副代表にJF岩手漁連の大井会長、JFやまがたの五十嵐組合長、JF福島信漁連の南部会長、相談役にJF青森漁連の植村会長を選出した。事務局はJFみやぎに置くこととした。

設立趣意書は次のとおり。

設立趣意書

近年、輸入水産物の増大による魚価安、強大化する業種別漁業による資源の減少・枯渇等、漁業環境の悪化が、魚食民族・長寿社会の我が国において、水産物の供給源たる重責を担い、東北地区においては中核的産業に位置付けられている漁業と、それを支える漁協の劣化を招き存続の危機的要因となっている。

更に、世界経済の流れとグローバル化の進展から、大きな犠牲を強いられて来た我が国の一次産業全体が低迷の一途を歩んで来ている。

加えて、漁協が拠り所としている系統金融も、厳しい国際金融マニュアルに拘束され、自己資本比率の厳格化による貸し渋りと貯貸率の低下に陥り、漁協の要望に思うように応えられず、このままでは、漁業者の負託に応え、漁業者を適切に指導し、漁業者の生活を安定させるという本来の役割を漁協が果たせなくなり、協同組合組織の崩壊という事態まで懸念されるところである。

2001年の水産基本法制定もあり、このような状況下において、今、系統組織がなすべきことは、正に漁協の再生・健全化であり、これを東北地区系統共通の課題として意思統一し、東北が一丸となってこれの実現に邁進することが重要である。

特に、漁協の再生・健全化については、漁業信用事業、いわゆる漁業の特質に立った浜の金融の円滑化と、金融の後ろ盾となる基金保証も必須であることから、県漁連、県漁協のみならず、県信漁連。県漁業基金も一体となった取組が必要である。

そのほか、今、業界には、漁業の持続、沿岸と沖合との共存共栄体制確立等、解決すべき問題も山積しており、漁協の再生・健全化とこれら漁業問題へ、東北地区の県漁連、県漁協、県信漁連、並びに県漁業基金が一体的に取り組み、現場から責任ある提言を発信するため、関係する団体で組織する「東北地区漁業漁協対策協議会」を設立するものである。

第36回「海をきれいにする運動」

入賞作品紹介

青森県漁業協同組合連合会とむつ湾漁業振興会の共催による第36回「海をきれいにする運動」が、むつ湾関係者のご協力により、本年度の事業を無事終了することができました。

この運動は、むつ湾の資源保護や漁場環境の保全を図り、むつ湾の美しい海を後世に継承することを目的として毎年実施されているもので、本年は7月20日から10月31日までの期間において、各漁協のご協力のもと海岸清掃等が行われました。

また、この運動の一環として、むつ湾沿岸の小・中学校の生徒を対象に、海をテーマとした作品募集をしたところ、図画186点、ポスター180点、作文58点、標語511点の合計935点の応募があり、専門審査員による厳正な審査の結果、各部門の優秀作品が決定され、去る12月20日(土)青森県水産ビルにおいて表彰式が開催致されました。

この内、図画の部の優秀作品（小学校6点）については、全漁連主催の第31回「全国海の子絵画展」へ出品しております。

本運動にご協力をいただきました関係の方々に対し、厚くお礼申し上げますと共に、来年度も引き続き本運動にご協力賜りますようお願い申し上げます。

尚、図画・ポスター・標語の入賞作品並びに作文の特選については、青森県水産ビル2階ギャラリーへ展示致しておりますので、ご来館の際は是非ご覧下さるようお願い申し上げます。



挨拶をする植村県漁連会長



祝辞を述べる坪田水産局長



表彰する三津谷むつ振会長



作文を朗読する細川君



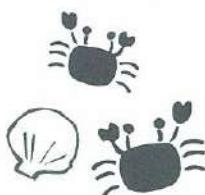
集合写真

第36回「海をきれいにする運動」審査結果

【小学校】《図画の部》

番号	賞名	学校名	学年	氏名	備考
1	特選	平内町立東田沢小学校	5	笹原 恵珠	全国
2	準特選	"	2	蝦名 稔麟	全国
3	"	平内町立茂浦小学校	1	須藤 飛雅	全国
4	佳作	"	2	逢坂 泊記	全国
5	"	平内町立東田沢小学校	6	田中 澪菜	全国
6	"	"	6	笹原 愛梨	全国
7	"	青森市立原別小学校	1	津川 修翔	
8	"	"	1	須藤 愛朗	
9	"	青森市立油川小学校	2	白戸 翔悟	
10	"	"	3	三上 愛永	
11	"	平内町立東田沢小学校	2	植村 侑史	
12	"	"	4	田中 風	
13	"	"	5	畠井 莉乃	

第31回全国海の子絵画展 6点



《作文の部》

番号	賞名	題名	学校名	学年	氏名
1	特選	ホタテ養殖とごみ	平内町立浅虫小学校	6	細川 知敬
2	準特選	うみとともに	外ヶ浜町立平館小学校	1	福井 純平
3	"	海とエコ生活	青森市立沖館中学校	1	大引 光
4	佳作	海のためにできること	平内町立浅虫小学校	6	飯田 達紀
5	"	海とマナー	むつ市立大湊中学校	1	日野 茜
6	"	ゴミはもどってくる	"	1	柳谷 梨沙
7	"	海に平和を	"	1	大島 翔
8	"	私たちの海	平内町立西平内中学校	1	豊島 美波

《標語の部》

番号	賞名	題名	学校名	学年	氏名
1	特選	まず行動 きっときれいな海になる	むつ市立大湊中学校	1	中村 悟
2	準特選	ごみが浮き 息苦しいよと 海が泣く	青森市立沖館小学校	4	館山 蒼
3	"	見せたいな 自分の子どもに 青い海	むつ市立大湊中学校	3	松山 大介
4	佳作	合言葉 海をきれいに たいせつに	むつ市立大湊中学校	1	山田 隆輝
5	"	すてないよ キレイな海を 守るため	青森市立沖館小学校	4	田畑 佑磨
6	"	守ろうよ 水産資源のふるさとを	むつ市立第一田名部小学校	5	阿部 春香
7	"	安心し はだしで歩ける すなはまに	むつ市立第二田名部小学校	4	加藤 桜
8	"	すてたらね 海のひめいが聞こえるよ	外ヶ浜町立蟹田小学校	2	宮本万里奈
9	"	安全で きれいな海に もどそうよ	むつ市立城ヶ沢小学校	5	武市 楓馬
10	"	ぼくたちの海をよごすな 輝かそう	野辺地町立馬門小学校	6	仲崎 光希

第三十六回 「海をきれいにする運動」

作文の部 特選『ホタテの養殖とゴミ』

平内町立浅所小学校 六年 細川知敬

「魚釣りしたいがら、あした、仕事に行ぐとき、船させでいいって。」

ぼくの家では、おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さん、家族みんなでホタテの養殖など海の仕事をしています。だから、お父さんたちは、よく船で海に出かけるのです。今年の夏休み、ぼくは、お父さんたちが船で漁場に行くとき、いつしょに連れて行つてもらつて、魚釣りすることにしました。

ホタテの漁場に行く途中の海には、はつぱうスチロールやビニールぶくろ、ジュースの空きかんなどたくさんのごみがうかんでいました。見たことのない文字みたいなものが書かれたふくろもありました。「きたねえなあ。」だれがこのごみ捨てたんだべ。」

とぼくは思いました。

お父さんが、海に沈めておいたふくろからホタテのち貝をとる仕事をしている間、ぼくは、かれいやあぶらめを釣るつ

もりでいたのに、ぜんぜん釣れませんでした。ごみのせいでの釣れないのではないかと思つてしまつたほどです。

ぼくは、力二をとるためのあみを引き上げる漁場にもついていきました。漁場に着いてから、あみを引き上げるのを見ていたら、さつき見かけたようなジュースのかん、はつぱうスチロールのかけら、ビニールぶくろなどたくさんのごみがいつしょにひつかかってきていました。ぼくは、海の底の方にも、こんなにごみがあつたのかとびっくりしてしまいました。

このごみは、たぶん海に遊びに来た人

や漁師の人たちが捨てたのではないかと思います。だから、このようなごみをなくすためには、海に来る人みんながごみを捨てないようにしなくてはならないと思います。ぼくは、5年生の時の総合学習の時間に、海にごみを捨てる、海の環境が悪くなり、プランクトンが育たなくなつて少なくなつてしまうことを思い

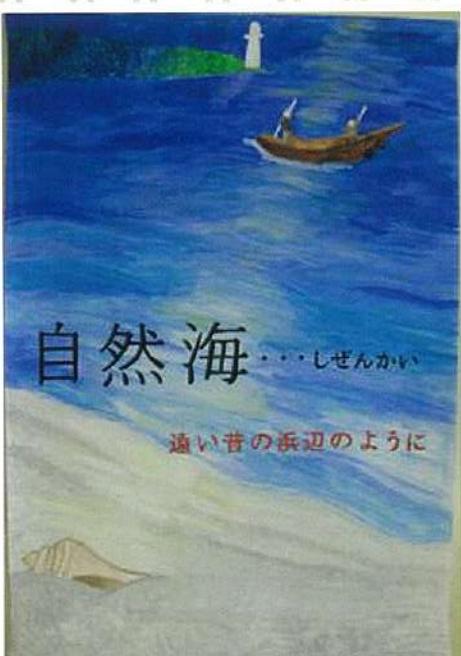
出しました。プランクトンが少なくなると、プランクトンをえさにしている魚やホタテも育たなくなり、死んでしまうこともあるかもしれません。そうすると、困るのは、漁師の人たちだと思います。そんなことになるととても困ります。

ぼくは、と思いました。海にごみを捨てるということは、ホタテの養殖をしている人をとても困らせるだけでなく、ホタテが取れなくなると、ホタテに関する仕事をしている人も困つてしまうのではないかと。たとえば、ホタテを運ぶトラックの運転手、加工場で働く人、ホタテを売つているお店の人などです。たくさんの人たちの仕事がなくなつてしまふと、お金をかせぐことができなくなつて、その家族も困るのではないかと思うのです。

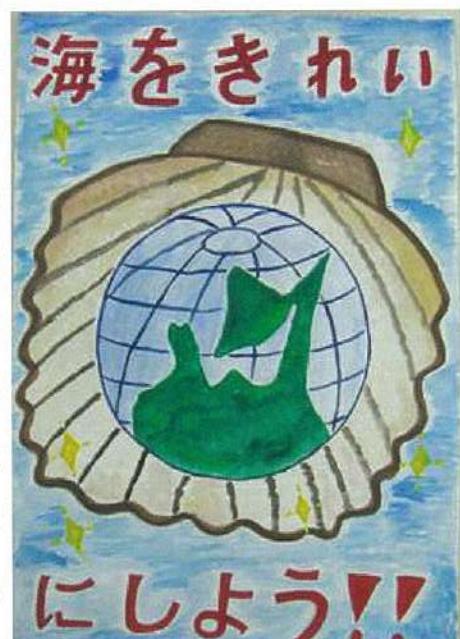
海にごみを捨てても、海はごみをなくしてくれるわけではありません。海の環境は悪くなるだけで、結局は自分たちが困ることになつてしまふのではないかと思います。だから、ホタテに関係しているぼくたちのような家族が困らないように、ぼくは、これからも海にごみを捨てるようなことはしません。それに、家庭から海に、よごれた水を出さないようになるためにはどうすればよいかも、考えてみたいのです。

第二十六回 「海をきれいにする運動」

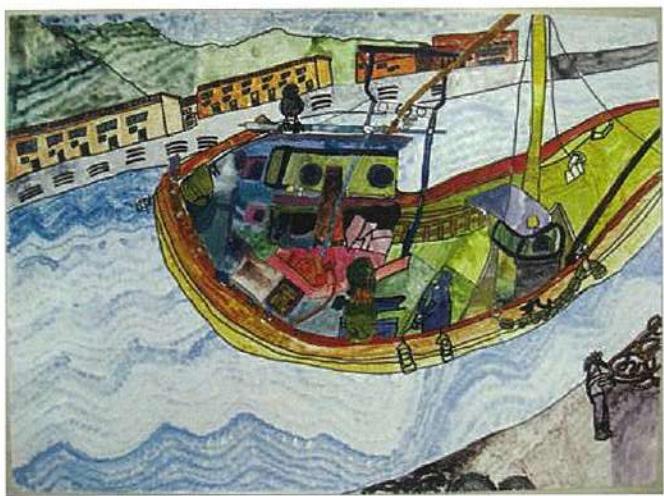
入賞作品



ポスターの部中学校 特選
むつ市立大平中学校 3年 松山美咲



ポスターの部中学校 特選
むつ市立大平中学校 3年 松山美咲



図画の部小学校 特選
平内町立東田沢小学校 5年 笹原怜珠

「まざ行動 きつときれいな海になる」

標語の部 特選 むつ市立大湊中学校 一年 中村 悟

平成21年1月10日発行
△発行△
青森県漁業協同組合連合会
青森市安方一丁目1番地32号 TEL 017-722-4211㈹
△印刷△
不二印刷工業㈱ TEL 017-741-5439

水産に関する主な動き（8月～12月）

月	事 項	場 所
8月		
1日 (金)	ほたて関係組合全体協議会	青森市
6日 (水)～7日 (木)	平成20年度東北・北海道漁協専務参事懇談会	仙台市
11日 (月)	青森県燃油高騰水産業緊急対策協議会設立会議	青森市
12日 (火)	青森県太平洋沖における冲底との安全操業の確保に関する話し合い	青森市
22日 (金)	燃油高騰水産業緊急対策に係る実務説明会	東京都
26日 (火)	青森県太平洋沖における冲底と小型いか釣漁船の 安全操業確保に関する船頭間の意見交換会	八戸市
27日 (水)	燃油高騰水産業緊急対策に係る実務説明会	青森市
9月		
1日 (月)	漁業権免許状交付式	青森市
2日 (火)	第5回全国漁青連「北海道・東北ブロック会議」	青森市
3日 (水)	青森県水産大賞選考委員会	青森市
8日 (月)	省燃油操業実証事業申請審査会	青森市
9日 (火)	JF全漁連資材購買ブロック会議（北海道～東北）	青森市
13日 (土)	泊漁協新荷捌施設落成式	六ヶ所村
16日 (火)	陸奥湾TASC制度協議会	青森市
21日 (日)	ほたての祭典2008	平内町
25日 (木)	省燃油操業実証事業の実施に係る説明会	東京都
29日 (月)	第2回省燃油操業実証事業申請審査会	青森市
10月		
5日 (日)	第4回青森県山・川・海の感謝祭	鰹ヶ沢町
8日 (水)	トド漁業被害防止対策検討会	青森市
10日 (金)	販売担当者研修会	青森市
12日 (日)	青森市中央卸売市場「食育祭」	青森市
21日 (火)	青森県東部海域漁業協議会通常総会	青森市
22日 (水)	青森県漁船保険組合創立70周年記念式典、祝賀会	青森市
24日 (金)	青森県漁協系統購買職員担当者研修会	青森市
30日 (木)	密漁取締合同模擬訓練	横浜町
31日 (金)	省燃油操業実証事業に係る実務説明会	東京都
11月		
1日 (土)	青森県豊かな海づくり大会	鰹ヶ沢町
1日 (土)	2008活力と魅力溢れる漁村づくり「日本海地域大会」	鰹ヶ沢町
7日 (金)	水協法改正に伴う実務対応説明会	青森市
7日 (金)	省燃油実証事業に係る実務説明会	青森市
12日 (水)	攻めの農林水産業推進大会	青森市
29日 (土)	青森県水産総合研究センター増養殖研究所創立40周年記念講演会並びに祝賀会	青森市
12月		
1日 (月)	ホタテガイ実態調査報告会	青森市
8日 (月)	アワビ等の流通に係る懇談会	東京都
8日 (月)	東北地区漁業漁協対策協議会設立会議	東京都
8日 (月)～9日 (火)	八戸鮫浦漁協監査	八戸市
11日 (木)	平成20年度青色申告会担当者研修会	青森市
12日 (金)	平成20年度青森県水産試験研究成果報告会	青森市
12日 (金)	青森県漁業士認定委員会	青森市
19日 (金)	平成20年度第1回漁業者協議会（日本海・むつ湾ブロック）	鰹ヶ沢町
20日 (土)	第36回「海をきれいにする運動」優秀作品表彰式	青森市